



F.L.ライトの設計思想を受け継ぎリフォームした家



庭からリビングがある西側を見る。この住宅はモダニズム建築で有名な建築事務所の設計で1946年に建てられた。今回のリフォームでも深い庇や低い屋根など水平ラインを強調するデザインを大切に、2階が増築された。

フランク・ロイド・ライトが提唱した「自然と建築の融合」を体現したこの住宅は、1946年に新築されてから70余年、数回のリフォームを経て、住み継がれてきました。軒を張り出させ、大きな窓を設けて内外を結び付けた設計や、水平ラインが強調されたデザイン、また米松の大木が立つ広い庭の景観と調和する素材や色なども維持されてきました。

今回は、現在の住まい手が2017年に土地・建物を購入し、リフォーム計画に着手。平屋建てに2階が増築され、主寝室とバスルームがつくられました。1階にあった寝室はオフィスとメディアルームに改築されました。

リフォームにあたって実施された建物調査で2×4材のスタッドと屋根のI型ジョイストなどの構造材は優良状態でした。実際に工事で内壁材と天井材をはがしたときにツーバイフォー工法の耐久性が改めて確認されました。米松による外壁もほとんど傷みがなかったため、クリーニングと防汚塗装を施したのみでした。木製サッシは既存の窓枠が活用され、単板ガラスからLow-E複層ガラスに取り替えられました。



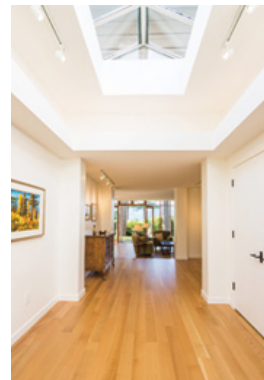
1階リビングのリフォーム工事の様子。70年以上前の構造材は優良状態だった。



リビングは西側に配置され暖炉が設けられている。庭に接するように床レベルが低く設定され、内外が一体化する設計となっている。



1階北西の角にあった寝室は、趣味や仕事に没頭できるメディアルームとオフィスに生まれ変わった。



東側玄関を入ると、正面奥にリビングが見える。ホールの高天井には屋内に自然光を呼び込む、大きな山型のトップライトが設置されている。



LDKはドアや壁で仕切るのではなく、「動きのある空間のつながりで住まいをつくる」というライトの設計手法が活かされている。



1階の南側には暖炉（奥）と大開口が特徴的なファミリールームと、コの字型キッチンがある。天井が高くハイサイドライトが設置されている。



2階に増築された主寝室とバスルーム。窓が連続して多面に設けられ、「自然と建築の融合」というライトの思想が新しい空間にも採用されている。



所在地 : カナダ ブリティッシュ・コロンビア州バンクーバー市

設 計 : コロン クラック

延床面積 : 386m² (ガレージ含む)

敷地面積 : 2,500m²

リフォーム : 2018年

Photo & Report : Peter Powles

【無断転載禁止】

本ページ掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。

すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。